

公表 事業所における自己評価総括表 (児童発達支援)

事業所名	ふるーれプラス
保護者評価実施期間	令和8年2月14日～令和8年3月31日
保護者評価有効回答数	(対象者数) 25名 (回答者数) 19名
従業者評価実施期間	令和8年3月16日～令和7年3月30日
従業者評価有効回答数	(対象者数) 6名 (回答者数) 6名
事業者向け自己評価表作成日	令和8年5月20日

分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取り組み等	さらに充実を図るための取組等
1	心理、保育士、児童指導員の有資格者による年齢構成の幅広いチームで支援を実施している。	常に有資格者3名体制をとることで、安全性を確保しながら効果的な療育を実施している。	ベテラン職員の経験、知識を中堅職員に円滑に伝達していく時間を設けていく。
2	個別指導のノウハウを蓄積してきており、各児童に対応した活動内容を組み立てている。	多種多様な手作り教材(自立課題)を用意しており、児童の発達段階や特性に合わせて提供している。	今後も児童が取り組める課題を開発していく。
3	1名单独または2名ペアでの個別指導のため、活動スペースが確保できる。	1時間の個別指導のため、机上の課題やダイナミックな活動など、療育室をさまざまに活用できる。	今後も安全対策を講じながら、多様な活動を行えるよう工夫していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の用意等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流の機会が不足していること	ほとんどの児童が保育所や幼稚園に在籍しているため、他の児童との交流の場が確保されており、事業所として取り組むべき課題として優先順位が低い。	法人として近隣の一般児童対象に実施している音楽会や人形劇鑑賞会に参加をよびかけて交流の場としている。
2	保護者同士の交流の場が少ないこと	交流の場を求める意見と、不要だという意見とがあるため、具体化の方策が浮かばない。	保護者会の中で時間をとることも考えられるが、限られた時間の中でどの程度優先されるのか検討が必要。
3	家族への支援プログラム(ペアレントトレーニングなど)の提供機会が少ない。	個別指導中心のため、療育実施時ごとにこまめに情報提供することが中心となっている。	個別指導の事業運営形態のため、集合講習的事業を行う時間帯をどのように捻出できるかが課題と思う。